

地域の防災力高めよ

南海地震への備え討議

高知市

大規模な被害が想定される南海地震の防災対策を考える「CDITシンポジウムIN高知」が九日夜、高知市本町三丁目のRKCホールで開かれ、「防災力」などを軸に基調講演やパネルディスカッションが行われた。

(小林 司)

り上げるか。ハザードマップ作りなど地域の取り組みが非常に重要になる」と話した。

この後、「防災・減災 須崎市防災担当参事、宮

財団法人・沿岸技術研究センター(CDIT)の主催。昭和南海地震から六十年が経過し、あらためて地震への警戒が強まる中、取り組むべき対策を考えようと、約五百人が参加した。

い、約三十万人が犠牲になったとされる一昨年のスマトラ沖地震による大津波の被害の甚大さについて解説。さらに、津波が押し寄せる様子をリアルに再現したグラフィック映像なども紹介しながら、「防災はハード、ソフト両面の対策が不可欠。その上で住民による自主防災組織をどうつ



南海地震に備えるさまざまな意見が出たシンポジウム(高知市のRKCホール)

村勝子・高知市種崎地区津波防災検討会会長ら五人のパネリストがあるべき防災対策などについて意見を交わした。

岡村教授は「南海地震では犠牲者の七割が津波で亡くなると予測されている。津波は数分のうち